

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研 究 テーマ	排泄ケア初学者における AI 搭載超音波画像診断装置による膀胱容量測定の有用性と補助を要した内容についての検討				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	佐藤 理乃
	研究協力者	所属・職名	看護学部・非常勤	氏名	宮澤 典子
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	佐藤 理乃

講演題目
AI 搭載超音波画像診断装置を用いた排尿ケア教育の実践と課題
研究の目的、成果及び今後の展望
本研究は、排泄ケア初学者における AI 搭載超音波画像診断装置の有用性を検討することを目的として計画された。特に、看護学生を対象とし、AI の補助機能を活用した膀胱容量測定の正確性および学習支援効果の検証を目指した。 また、関連分野における先行研究の動向を把握するため、AI 技術の医療教育への応用および超音波機器を用いた教育支援に関する文献検討を行い、本研究の位置づけおよび検討課題の整理を行った。 しかしながら、本研究は授業内における学生を対象とした研究計画であったことから、教育と研究の境界および参加の自由意思の担保に関する倫理的課題が指摘され、倫理審査の結果、研究としての実施には至らなかった。 一方で、教育実践として老年看護学演習内において AI 搭載超音波画像診断装置を活用した膀胱容量測定の体験的学習を実施した。その内容については、日本排尿機能学会のシンポジウムにて報告を行い、初学者における AI 支援技術の活用可能性および教育的有用性について意見交換を行った。 本研究の検討過程を通じて、AI 技術を教育現場に導入する際には、教育実践と研究の明確な区別および倫理的配慮の在り方が重要であることが示唆された。 今後は、研究対象および実施方法の再検討を行い、教育から独立した研究デザインの構築を図るとともに、臨床現場を対象とした検証への展開を目指す。